防災関係部課長会議　会議録

１　日　時　令和６年７月１日（月）午後１時３０分から午後３時００分

２　会　場　愛知県自治センター　大会議室

３　当番市　小牧市

４　出席者　県　防災安全局　防災部　災害対策課　担当課長　原　雅有
　　防災安全局　防災部　災害対策課　課長補佐　佐藤　正幸
　　防災安全局　防災部　災害対策課　主事　吉岡　詩織
　　教育委員会　管理部　財務施設課　担当課長　原　隆信

　　市　名古屋市　防災危機管理局地域防災課　課長　磯貝　昌樹　始め３８名

　　市長会事務局　行政係長　成瀬　博幸
　　財務係長　武本　恵

５　内容
⑴開　会　市長会事務局　武本　恵

⑵あいさつ　県　防災安全局　防災部　災害対策課　担当課長　原　雅有

⑶議　題
【議題１】県立高校における避難所の指定について
質疑応答及び発言内容
春日井市：豊橋市は県立学校を第２指定避難所として運用されており、第１指定避難所の収容能力を超えた場合に開設するとのことだが、実際に開設した実績はあるのか。また、第２指定避難所が開設される前に避難者が来所された場合はどのように対応しているのか伺いたい。
もう一点、県立学校に配備している資機材にペット同行避難対策用クレートが配備されているとのことだが、県立学校のみをペット同行避難所として運用しているのか。また、体育館や武道場など、人と同じ居住スペースに避難する同伴避難を可能にしているのか。
豊橋市　：第２指定避難所を開設した実績はない。また、開設を判断する前に、避難者が避難してきた場合の対応については鍵を市と地元でそれぞれ保有しており、地元の理解もあるため、水害で第１指定避難所が開く前に第２指定避難所に避難されることはよほどない状況である。
なお、大規模地震等があった場合は第１、第２指定避難所をともに開くことになる。
もしも、避難者が第２指定避難所に避難してきた場合は地元住民が鍵を開けた上で職員が後から向かうことになる。
もう一点、ペット同行避難対策クレートについては記載方法が分かりづらかったが、クレートを小学校のみに設置しており、県立高校には設置

していないため差異がある点として記載させていただいたもの。
また、同伴避難に関しては想定をしていないため、基本的に小学校の雨を防げる場所、渡り廊下等を想定している。

知多市　：資料では知多市は県立学校の避難所としての指定について意向なしとしていたが、現在検討中である。

あま市　：県への質問がある。他市町でも同様の問題が発生している可能性があるが、あま市では隣接している市と両市で県立高校を避難所として指定したいという状況が発生している。他の事例では既に他方が指定していることから高校側から断られた事例があるとも聞いている。ついては高校側の意見を尊重すべきなのか。
もう一点は、両市が高校を指定避難所とした場合、避難可能人数等を公表する際に重複した計算になってしまう可能性もあると思うが、報告の方法や実災害時での運用方法について両市での取り決めを行う方法などはどのように行うべきかご意見を伺いたい。

愛知県教：先日、学校からの相談を受けており、学校側としては既に市に指定をされており、その後他市から指定依頼があったとのこと。
学校としては、異なる二つの市が体育館に同居する場合、運用方法や物資の搬入等様々なものが異なってくるため現場が混乱するのではないかと危惧されている。そのため、学校としては判断しかねるとのことであったため市同士で話し合いをしてもらうように助言したところである。

愛知県災：市町村域を跨る県立学校の指定については当該市町村に存在する避難所を近隣の市町村が指定することがおかしいのではないかと思われる。市域を跨っている避難所ということであったが、内閣府に確認の上、連絡をしようと思う。

小牧市　：小牧市では通常の避難所と同様に県立学校についても指定しており、鍵も預かっており同様の運用をしている。
ただし、差が出ていることについては県立学校では訓練が行えていない点である。今後訓練も行えるように検討していきたい。
また、先週２８日に行われた中央防災会議にて避難所について話が出ていたが、能登半島地震ではパーテーションや段ボールベッドを持って行ったが過密で使うことができなかった点があり、中央防災会議では、パーテーションや段ボールベッドを避難所立ち上げ当初に作るよう意見があった。しかし、そうすると一人が使うスペースが従来想定している面積の三倍近く使用する必要があるため避難所が足りなくなる。
発災当初には余震への恐れ等で本来避難する必要のない方も避難してみえるため、過密な状態が予想される。生活環境の改善は人が少なくなってからでなければ困難だと思われるが、示された指針通りにすると現在ある避難所では足りないのではないかと考えられる。小牧市で考えてみるとこれ以上公的な場所を避難場所にすることは難しいため今後どのように対応していくべきか精査していく必要があると思われる。

【議題２】総合防災訓練における新たな訓練内容について

質疑応答及び発言内容

小牧市　：半田市では車中泊の訓練を行ったとのことであったが、どのような訓練を行ったのか教授いただきたい。

半田市　：総合防災訓練の中で、通常の避難所開設だけではなく、車で来られた方を１０数台想定して受付や物資の支給を実施したものである。そのため、会場の一部を車中泊スペースに設定して実施した。

小牧市　：車中泊については、積極的に推進していくものではないと思うが、実際の熊本地震等の大規模災害においては車中泊避難をされている方が非常に多い現状がある。小中学校等のグラウンドで車中泊を行っている方についてはそれほど問題ないが、それ以外の場所で避難を行う方の塊ができてくる場合がある。国としてはそういった場所にも支援拠点を設けるべきであると提言があると思われる。
もしそうなった場合、どのようにフォローしていくべきか。
また、小牧市で考えれば、南海トラフ地震が発生した場合、沿岸部から少しでも内陸の市町へ避難するために小牧市で車中泊避難を行う方も多く出てくる可能性があると考えられる。
そのような、市外からの避難者へのフォローする必要があるが、市だけでは対応が難しいと思われるため、県についても全体をみながら支援方法を検討していただく必要がある。

愛知県災：県として今年は総合防災訓練を９月１日に阿久比町と実施する予定である。内容については中学生に新しい防災の担い手となってもらうため新しい防災の学ぶ機会の提供として避難所運営訓練を実施するほか、難聴や中途失聴者の方に避難所開設運営訓練を行っていただくことになっている。
また、１１月１７日には愛西市と津島地震防災訓練を行う際に広域避難の訓練を実施する予定である。
さらに、能登半島地震を踏まえるというよりは熊本地震の教訓・課題をもとに新たに始めた被災自治体支援活動を毎年市町村と実施している。
内容については受援計画に基づき行政支援をどのように受け入れるのかというもの。
今年は弥富市と実施することとなっている。
災害が発生すると業務量は二倍程になる。能登半島地震では県として志賀町に入った際は志賀町の職員と同数程の応援職員がいる中で、どのように業務を回していくのかなどの課題が出ていた。
体験することは難しいため、訓練を通してイメージを醸成してもらえるように実施している。来年度意向も予定しているため積極的に参加したい旨を県に伝えていただきたい。

【議題３】防災ヘルメットの更新について

小牧市　：一宮市は更新時期を１５年と定めているがどのような考えをもとに定めているのか。

一宮市　：在職中に一回は変えたほうが良いのではないかという考えのもと定めている。

愛知県災：県としては各市町村と同じで５、６年が推奨期間だと承知しているが、財政当局に説明がしづらい現状であり、定期的に更新することには至っていない。
組織改正や今回の地震により、より良いヘルメットの提案等の変化点があれば更新しやすいが、計画を持って行っている状況には至っていない。

【議題４】自走式トイレカー等の移動式トイレについて

小牧市　：小牧市としては、すべての避難所に配備できるほどの数が確保できるのであれば有効であると考えるが、それほどの数を用意するのは困難であるため導入は見送っている。
中央防災会議の中では、トイレカーを利用するなどを検討すべきではないかとの意見も出ていたことから、今後も検討する必要はある。

尾張旭市：一宮市では 12 月末頃、みよし市では 10 から 11 月ごろに導入予定とのことだが、購入する移動式トイレの種類やサイズ、仕様などについて教授願いたい。
また、既に契約をしている場合は業者名と購入金額について、契約前であれば相談している業者や予定価格について教えていただきたい。

一宮市　：一宮市としては、けん引免許不要のサイズで比較的小型のものを想定している。トイレについては車いすでも使用可能なバリアフリーのものを考えている。
予算を組む際には、トヨタ自動車に相談をした。
トイレ本体とトイレに電気を供給するプラグインハイブリット車のセットを想定しており、2,490 万円の当初予算を計上している。

みよし市：みよし市では６月補正で予算をとったところだが、想定している車両はおそらく一宮市と同様の車両となると思われる。
参考としてトヨタ自動車と相談して、重要視した点は牽引の免許を持っている職員が基本的に確認できないため、けん引免許不要であること、またバリアフリーで誰でも使いやすいことが選定の条件としている。導入は年内を想定している。
費用については車両の検討も行ったが、トイレ本体が 1,400 万円となり、それに加えてメンテナンス費用等及び 5,000 ワットの発電機１台 100 万円を併せて 1,600 万円程の予算をとっている。

尾張旭市：春日井市は寄附によりトイレカーを導入しておられるが、維持管理状況や保管場所、機能維持のための移動、メンテナンス頻度について教えていただきたい。

春日井市：春日井市は寄附でいただいたものだが、トレーラーで引っ張るようなものではなく、軽トラックの後ろ部分がトイレになっている一体型のものである。ベースが軽トラックであり高さが２７６センチと高い点

も考慮して市の清掃のパッカー車を駐車している屋根付きの場所に保管している。
また、メンテナンスについては昨年導入して以来トイレとして活用したことはなく、防災訓練等で展示している。
掃除等のメンテナンスについても実施していない状況である。トイレ機能維持のために車とは別のバッテリーを積んでいるため充電が必要となる。充電方法は外部電源から給電する、または自走することによる充電の２種類ある。
動作確認とともに月に一度、職員が走行させて充電する形で維持管理を行っている。

愛知県災：トイレカーの整備状況については春日井市、刈谷市に加えて阿久比町に整備している。
財政支援については、愛知県の南海トラフ地震等対策事業補助金で三分の一補助となる。ただし、トイレトレーラーが対象となるが、車両の部分は汎用的に使えるものとなってしまうため、トイレが対象になる。その他緊防災も使えることを伝えさせていただく。

【議題５】その他
意見なし

６　次年度当番市の決定　　稲沢市

７　閉会　市長会事務局　武本　恵